第３回 和光市駅駅前広場検討委員会
議事要旨

開催日時	令和８年３月２５日（水）１３：００～１４：３５
開催場所	和光市民文化センター　サンアゼリア　会議室
出席者	（委員） 久保田尚、佐々木邦明、田中智之、冨岡健治、山科和仁、田中和徳、乙田まりさ、福田順一、前島祐三、渡邉宗臣、黒田繁、柳下三佐男（順不同、敬称略） （オブザーバー） 深野祥子、前田海登、小林健二（順不同、敬称略）
欠席者	内田奈芳美委員、小瀧正和委員
事務局	道路安全課：武田、髙橋、西田、横山、山本 昭和㈱：小暮、中野、箕輪
次第	１　開会 （1）委嘱書授与について （2）これまでの委員会実施内容について ２　委員紹介 ３　議事 (1) スケジュールについて【資料１】 (2) 交通関係の検討経過について【資料２】 (3) コンセプト立案に向けて【資料３】 (4) 市民等の意見収集について【資料４】 ４　閉会
傍聴者	２人

・会議は市民参加条例第１２条第４項の規定により公開とする。
・会議録は同条第６項の規定により公表する。なお、会議録は発言者の名称と、その発言の要点を記載する要点記録の形式とする。

１　開会

事務局

・本日の委員会は、委員の半数以上の出席を確認しているため、和光市駅駅前広場検討委員会設置要綱第５条第２項の規定により成立している。

(1) 委嘱書授与について

事務局

・委嘱書の授与は、机上配付をもって交付とする。なお、任期は令和８年３月１日から令和９年３月３１日までの予定となる。

(2) これまでの委員会実施内容について

事務局

・これまでの和光市駅駅前広場検討委員会は以下のとおり開催した。
　第１回（令和７年１０月９日）　事業概要の説明
　第２回（令和７年１２月１５日）　２号委員の委嘱状況説明
・本委員会の委員長及び副委員長は、第１回の委員会において和光市駅駅前広場検討委員会設置要綱第４条第２項及び第３項に基づき、委員の互選により委員長が久保田委員、副委員長が佐々木委員となった。

２　委員紹介　＜委員名簿に基づき、事務局より検討委員会委員を紹介＞

３　議事

(1) スケジュールについて　＜資料１に基づき事務局より説明＞

＜質疑応答＞

なし

(2) 交通関係の検討経過について　＜資料２に基づき事務局より説明＞

＜質疑応答＞

田中（和）委員

・「警察からの指導により降車バース枠線の区画線は標示しない」とあるがなぜか。

事務局

・警察協議時点では、区画線を標示し、乗降車バースを別々に設置していた。しかし、降車バースの区画線を標示させることで、そこに一般車が停まる可能性が高いため、降車バースの区画線は標示しないよう警察から指導された。加えて、一般車については基本的に送迎時の乗車、降車のみを想定しており、駐車を誘発させる区画線は標示しないよう指導され、このような路面標示になった。

(3) コンセプト立案に向けて　＜資料３に基づき事務局より説明＞

＜質疑応答＞

久保田委員長

・議事１のスケジュールの説明で３案の絞り込みを行うとあったが、それがコンセプト案のことか。

事務局

・そうである。第４回検討委員会において３案から２案へ絞り込み、第５回検討委員会において２案から１つの最終案に絞り込みを行う予定である。

久保田委員長

・参考資料の図はコンセプト案①とコンセプト案②のどちらを対象としているのか。

事務局

・現状予定している機能を落とし込み、車両の動線も考慮して交通空間を最小限にした場合の図を参考として記載しており、特定の案について示している図ではない。それぞれのコンセプト案に対して、具体的な規模感や図面への落とし込みは、まだ作業できていない。

田中（智）委員

・資料２の駅北口駅前広場への歩行者流動予測では、西・北エリアが約１．５万人、東エリアが約１．２万人で、合計２．７万人となっている。資料３の改札入場者数は、約８．４万人となっている。８．４万人のうち、駅北口を利用する方が２．７万人で、そのほかタクシーやバス利用者が加わるという認識で良いか。また、８．４万人のうち、北口と南口に行く方割合はどの程度か。

事務局

・資料２に記載されている歩行者流動予測の合計約２．７万人は、再開発事業や土地区画整理事業による人口増加を考慮していない数となるため、それらを考慮すると、資料２の北口将来乗降客数約４．０万人と考えられる。

田中（智）委員

・８．４万人は現状の数字だが、将来乗降客数約４．０万人の内訳はわかるか。

事務局

・将来予測の乗降客数に関する内訳データは無い。平成３０年度の駅勢圏人口における北口の割合が４３％、南口の割合が５７％であるため、８．４万人に４３％をかけるとおおよその北口乗降客数が出る。

田中（智）委員

・誰がどの程度利用するかという、属性のわかる資料があると、今後のコンセプト設定がやりやすくなる。

久保田委員長

・コンセプト３案を提示した意図を教えていただきたい。また、案３は案１及び案２を平日と休日で使い分ける案となっているが、その意図は何なのか。案２で平日と休日を区別せずに運用できるのであれば、案２で良いのではないか。案３があるということは、案２では平日の運用が難しいとわかっているからか。

事務局
・まず、「車中心から人中心に」という佐々木副委員長からの話を参考に、駅前広場が人の賑わう場所になってほしいと考えた。和光市駅の乗降人員は約１６万人おり、始発駅にもなっている。和光市駅が乗換駅となっているため、改札内には多くの人がいるが、その方々が和光市駅を通過したり、駅から家にただ帰るだけでなく、和光市駅に寄って何かをしてから帰ろうと思ってもらえるような空間を作りたいという思いでパークやストリートと表現している。
・平日と休日で使い分けるにあたっての数字的な根拠については、平日と休日の利用状況を把握している程度である。今後、バスやタクシーの需要を把握し、交通広場の規模の検討や、需要に合わせて形を変えた運用を検討したいと考えている。

福田委員
・コンセプトは想定されるパターンを洗い出すことが必要だと思う。パークの形が平面的にＬ字型でしか表現されていないが、再開発や区画整理を合わせて考えれば、もう少し自由度が上がり様々な形が想定できると思われる。また、北口駅前にとどまらず、ここにできるパークやストリートが市内に波及するというストーリーがあると良い。次回の検討委員会で、この３案から絞り込みを行うのかは、再度検討してほしい。

事務局
・次回の検討委員会では、それぞれの案の詳細な情報を提供することができるよう、具体的な図面を示す予定である。３案を比較することができるよう、長所や短所を整理して議論ができるような資料を用意したい。

前島委員
・広域的な図で見ると、駅の北側にはアーバンアクア公園があり、南側には樹林公園等市内にもパークが点在している。それらを繋げていくのがストリートであり、その起点となるのが和光市駅となる。このように広げていくようなストーリーも考えられる。

山科委員
・参考資料の図の、青と緑で表示されている平面的にＬ字型の部分が広場となる認識で良いか。駅前広場の面積自体が小さくなったり、バスロータリーが狭くなったりするということはないか。

事務局
・駅前広場の区域は、都市計画決定時のままであるため、駅前広場全体の規模に変更はない。その中で、バスやタクシーの交通空間を最小限にした図を検討し、参考として載せている。今後、事業者と必要な規模についての協議を実施し、駅前広場の線形計画に反映することとなる。

山科委員
・現在、和光市駅北口を出てすぐの位置にバス停があるが、今回の案の場合はバス停が駅から離れている。駅からバス停が離れてしまうと、バスに乗るために遠くまで歩かなければいけなくなる。そういった利用者の動線も考慮していただきたい。

田中（和）委員
・改札を出て和光市駅北口の階段を登ってからタクシーやバス停までどのくらいの距離があるのか。

事務局
・参考資料の図だと約４０ｍ程度となる。バスやタクシーの利用者も考慮して検討していきたい。

山科委員
・現在、和光市駅にしかバス乗務員の休憩所やトイレがなく、この休憩所を起点にバスを運行させている。また、和光高校循環の乗客数は他の路線と比べて多く、和光高校が無くなっても乗客数は減少していない。今後、再開発事業により駅北口の休憩所やトイレが閉鎖され、バス乗務員が休憩所やトイレを使用できなくなると、乗務員が休憩できる場所が無くなってしまう。休憩所の代替地を探していただきたい。また、時刻表の変更や協議調整のため、バス乗務員の休憩所やトイレが使えなくなる半年前には代替となる場所を決定していただかないと、運行ダイヤに支障が出てしまう。

事務局
・休憩所やトイレの話についても庁内で確認する。駅前広場の線形計画を検討する上でも休憩所やトイレの設置問題は必要な要素となってくるため、情報としてまずは受け止めさせていただく。

田中（智）委員
・３つのコンセプト案から１案に絞るやり方ではなく、別の観点からのコンセプト検討が必要なのではないか。まず、和光市駅北口、再開発事業、南口を１つの大きな駅として一体的に捉えることが全体の考え方とする。最終的な目標を一体的にとらえるとしたとき、これを実現するためには北口

と南口の位置付けが重要となる。例えば、北口は市民、生活、文化といった位置付け、南口は、和光の玄関として多様な利用ができるといった位置付けとする。また、北口と南口を結び付ける手段として、ストリートやパークがあるといった構成で考えるのはどうか。現在のコンセプト案は、ストリートかパークかといった空間構成の在り方だけにフォーカスしており、全体としてどのような駅前広場とするかという視点がない。前提となる北口と南口の考え方や位置付けを検討し、空間構成の話と合わせて全体としてどのような駅前広場の方針とするようにまとめていかないと、議論が進まないと思う。

事務局

・ご意見を踏まえ、３案の絞り込みを行うのではなく、コンセプト案の全体的な考え方を整理する。

(4) 市民等の意見収集について　＜資料４に基づき事務局より説明＞

＜質疑応答＞

久保田委員長

・駅前広場に対する広い意見収集について、小学生などは特に駅前広場と再開発事業の区別が難しく、再開発事業に対する意見も混在してしまうことを懸念している。どのような方法で駅前広場についての意見をもらうのか。

事務局

・再開発事業に対する意見があっても仕方がないと思っている。様々な意見をより多く収集するのが狙いである。

田中（智）委員

・まず広く市民に様々な意見を聞くことを第１段階とし、その意見を参考にコンセプト案を検討したうえで、第２段階としてコンセプト案（今回の場合はストリートや広場）について意見を聞くのはどうか。第２段階では、どのような道や広場が良いのか、どのような使い方ができると良いかといった意見収集を行うイメージである。段階を踏んで意見収集を行わないと、答える方も難しいと思う。今のスケジュールでは、これらの意見収集を同時並行で進めようとしてしまっている。検討している事項に対し、その都度意見が反映できるようなスケジュールを組むべきである。

事務局

・意見収集の段階やスケジュールについては今後検討する。LINE での回答については、レスポンスが良いとの事前情報もあるため、段階を分けて実施したい。

久保田委員長

・駅前広場について民間の関与や運営組織を作らないと、空間の使い方が持続的でないものになってしまう。エリアマネジメント組織のような組織を作り、駅前広場の運営について一緒に考えながら本検討を進めると良いと思う。

事務局

・フォーカスインタビューを実施する際、今後一緒に検討を進められそうな人を探す予定である。エリアマネジメント組織についても検討する。

久保田委員長

・再開発事業ビルの低層の商業施設の方も現段階から取り込み、一緒にマネジメントすると良いと思うが、再開発事業側ではそのような動きはないのか。

乙田委員

・現時点で再開発事業としてエリアマネジメント組織を作る予定はないが、今後検討する可能性はある。

田中（智）委員

・エリアマネジメント組織も良いが、そこに市民が参加することのできる仕組みを作っていくことも重要となる。エリアマネジメント組織のみでなく、市民や周辺事業者を巻き込んで、誰でも参加できるような仕組みづくりを早急に考えていかないと、実現できなくなる。

事務局

・エリアマネジメント組織の件も含めて、内田委員にも相談し、検討を進める。

４　閉会

事務局

・次回は令和８年７月７日を予定している。　以上